電子情報通信学会 倫理事例集のねらい

電子情報通信学会

森下壮一郎

(株式会社サイバーエージェント)

電子情報通信学会倫理綱領 形成史 概観

- 前史 IFIP (International Federation of Information Processing) における倫理綱領作成勧告とその影響 (1979~1990)
- 第1期 電子ネットワークの倫理としての倫理綱領の形成：電子情報通信学会倫理綱領第1版の形成 (1991~2003)
- 第2期 電子情報通信技術者の倫理としての倫理綱領の形成と展開：電子情報通信学会倫理綱領第2版の形成 (2004~2020)
- 第3期 多様性と対話の時代に向けての倫理綱領の改定：電子情報通信学会倫理綱領第3版の形成 (2021~)

[大谷卓史：電子情報通信学会と倫理綱領](#), *Fundamentals Review*, 16(4), 2023.

技術倫理事例集作成

技術と社会・倫理研究会を中心とした倫理綱領検討小委員会
(委員長 小川賢 先生)

- 倫理綱領を改正（2023年9月に公開）
- ほとんど時を同じくして情報処理学会が関連規定を改訂
- 情報処理学会と連携して事例集の作成に着手
- 動画コンテンツとして現在2件が公開（漸次追加）
 - https://www.ieice.org/jpn_r/about/rinrikoryo/code6.html

倫理事例集のねらい

その時々倫理綱領および行動指針を前提として……

- **未経験な倫理問題に対して社会的な側面と個人的な側面の両面から考察する**
 - 新たな技術倫理問題として規範の成熟が必要なもの
 - 想定外の状況に対して技術者の行動指針を熟慮する必要のある事例

十分な情報を得て熟慮すれば適切な判断が可能な状況であっても
実際には即断が迫られる場合が多い

……より適切な行動をとれるような事前のトレーニングとしても位置づける

倫理事例集（2017年公開）の見出し

（1）技術者の倫理的行動

- 事例A-1：東日本大震災時の災害支援システム開発
- 事例A-2：BART開発問題とIEEE
- 事例A-3：携帯電話のユニバーサルデザイン
- 事例A-4：無線LANの脆弱性

（2）秩序と自由

- 事例B-1：遠隔教育における他者の著作物利用
- 事例B-2：ソフトウェア開発におけるオープンソースの利用
- 事例B-3：ドローンの活用と規制

（3）想定内と想定外

- 事例C-1：3Dプリンタ拳銃事件
- 事例C-2：パソコン遠隔操作事件
- 事例C-3：映画「マイノリティ・レポート」に見る統計的判断の不完全性

（4）便利さとリスク

- 事例D-1：SNSの潜在的リスク
- 事例D-2：Cookiesによる監視のメリットとデメリット
- 事例D-3：クラウド型ホーム・ボイス・アシスタントの便利さとリスク
- 事例D-4：ソフトウェアの「使用許諾条件」内容への同意
- 事例D-5：大学内ネットワークにおける運用管理とプライバシー

https://www.ieice.org/jpn_r/about/rinrikoryo/code5.html

新：倫理事例集（電子情報通信学会・情報処理学会共同制作）

- 電子情報通信学会

- 電子情報通信学会倫理綱領 行動指針 倫理事例集(β版)

- コンテンツモデレーション 森下壮一郎（株式会社サイバーエージェント）
- 学生・生徒を対象にする調査や実験は、どのような倫理的配慮が必要か 壁谷彰慶（東洋英和女学院大学）・大谷卓史（吉備国際大学）
- 故人に対するオンラインエスノグラフィーの倫理 古田雄介（ノンフィクションライター）参考資料1～3執筆協力：大谷卓史（吉備国際大学）・壁谷彰慶（東洋英和女学院大学）

- 情報処理学会

- 情報処理学会倫理綱領 倫理事例集

- ダイバーシティとアンコンシャスバイアス 吉濱佐知子（アマゾンウェブサービスジャパン合同会社）
- 開発者に対するデセプションを用いたユーザ調査研究の仮想事例 秋山満昭（NTT社会情報研究所）

https://www.ieice.org/jpn_r/about/rinrikoryo/code6.html

倫理綱領と行動指針改定で検討された論点

- 名宛て人の明確化
- 差別／ハラスメント禁止条項の改正
- ジレンマやトレードオフの考え方を多様な価値の観点で整理
- 事実の尊重
- 契約遵守と是非の判断
- 自己啓発と教育
- 先行業績の尊重
- 他分野の専門知や生活における知識・経験・感覚の尊重および対話

論点ピックアップ：多様な価値

原文

トレードオフ関係にある価値が存在することを理解し、その均衡をはかる。

改訂後

トレードオフの関係およびジレンマをはじめとする1つの尺度では測れない関係にある価値が存在することを理解し、その均衡をはかる。

私見：「トレードオフ」から受ける印象

工学を修めた者にとっては「トレードオフ」には**技術で解決できそうな**ニュアンスがある

例1. 重量と強度のトレードオフ

……新しい構造や材料が解決する

例2. レスポンスと精度のトレードオフ

……新しいプロセッサやアルゴリズムが解決する

「1つの尺度では測れない関係にある価値」の例

- 新しい構造は量産ができない
- 新しい材料は環境負荷が高い
- 新しいプロセッサは消費電力が大きい
- 新しいアルゴリズムは説明可能性がない

倫理綱領改訂箇所は「技術だけで解決すべきでない」問題の存在についてより明確にしている

私見：常に「自由」を考えている（ように見える）

事例：大学内ネットワークにおける運用管理とプライバシー
……通信の自由

事例：コンテンツモデレーション……言論の自由

事例：故人に対するオンラインエスノグラフィーの倫理……
報道の自由

情報システムの管理者は直ちに自由権に抵触しうる
……ときに憲法論に踏み込んで議論している

倫理事例集の作成および活用にあたっての難点

技術倫理協議会の勉強会での印象深いやり取り（要約）

※土木学会の取り組みで公共性のある講演会や研修会などで講習を行っておりグループ討議を実施しているという文脈で

Q：グループ討議では色々な意見が出ることと思うが、講師は上手くリードできるのか。模範の解答例を講師にあたる人は持っているのか。

A：模範解答は用意していない。どう考えても正解がない。

事例集作成の「ジレンマ」

- **議論の余地は少ない方が教材として活用しやすい**
 - e-ラーニングの問題に使えるなど
- **一方でそのような事例では十分な教育的効果が見込めない**
 - マルバツでは本当の教育にならないのでは